



MONTHLY

かわせみ通信

10月号
2016年10月
Vol.86

発行所  株式会社 東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)
TEL.059-332-5122(代) http://www.tokai-techno.co.jp

人類に傘と決別できる日はくるのか? ~閃きを呼ぶウイスキーの話~

イノベーションの定義を、極端な表現として「ヒトの生活を一変させる技術やモデル」とすると、歴史上その代表例には自動車や飛行機、PCなどが思い浮かぶ。ソーラーパネルも確かに革新的技術であるが、その技術で我々の生活が一変していないところを見ると、これは狭い意味でのイノベーションとは言い難い。この定義で見渡すと、ここ数十年の間のイノベーションは極めて少ない。70年代80年代の少年少女の描く未来図に登場する空を飛んでいる車は、今も地べたの上で渋滞の列を並んでいる。ブレーキもワイパーも1900年初頭の量産型モデルと全く原理は変わっていない。数百年の停滞はまだしも、傘など4000年ほど前からほぼ同じ形のもを人類は使い続けているのだ。4000年前の人類に「本当のところ技術は発明されているが、産業を守るために隠しているのだ」と言い訳をし

たいくらいである。歴史上、生活を一変させるような革新的技術は、たった一人の人間の閃き(ひらめき)から生まれていることが多いが、誰も家庭や会社での課題解決や企画立案などにおいて閃きが降臨した経験を持っている。それはシャワーを浴びている時、トイレにいる時、居酒屋で、など人によって様々ながら突然やってくる。この閃きを意図して



怪しげな情報と思いつつも、理系の血がさわぐ

起こせるとしたら・・・。「脳」は、人体に残された最後のフロンティアと呼ばれ、こうした閃きがどうやって起きるのかのメカニズムも解明されていない。しかしながら、覚醒の酒とも呼ばれるウイスキー、それも上等な香りのよいものを飲んで、興奮→昏睡を経て夜中にまた目覚めてしまって眠れない時、そこに閃きを呼ぶ脳の現象は現れるとする報告がある。多くの著名な作曲家や小説家はそのアイディアや閃きを得るためにウイスキーを愛用していたという。もちろんそのアイディアに近いところの知識や経験があり、何かを真剣に考えている閃きであろうし、「胎教にはモーツァルトの曲が良い」に近い匂いのする現象論であり、ましてや飲酒を推奨するわけではないが、ウイスキーが嫌いではなければ、是非どうだったか教えてほしいものである。私もこの週末やってみよう。

創立45周年記念講演会 開催



去る10/8(土)に弊社創立45周年記念として、三重県に来られたのはこれが初めてという2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士をお招きし、約500名の方々満場での講演会を開催することができました。ご多用中にも関わらずご出席をいただいた皆様方に、厚く御礼を申し上げます。大村博士が発見した菌から抽出した化合物を改良して作られた「イベルメクチン」は、アフリ

カの風土病である「オンコセルカ病」を今や撲滅へと向かわせており、年間数万人を失明から救っていることは有名ですが、講演会においては、生まれ育った山梨での生い立ちから学生時代、高校教師を経て研究の道へ進まれ、ノーベル賞受賞に至るまでの「歩んできた道」について、また、何を大事にしてきたかなど貴重なご講演をいただきました。こぼれ話として、大村博士はコーヒーアレルギーなのですが、写真のミルクコーヒーだけは何かアレルギーが発症しないそうで、当日も持参をされておられました。仕事柄、何故?に興味が沸いてしまいました。



みえリーディング産業展のご案内

11/11(金)~12(土)に「みえリーディング産業展2016」が四日市ドームで開催されます。170以上の企業や団体が出展する県内最大級の展示会で、毎年幅広い業種のブース展示が行われています。多彩な異業種の企業交流の場でもありますし、12日(土)には、ご家族でも楽しめる様々なイベントも企画されているようです。弊社も数年ぶりに出展することとなりました。「はかる」「まもる」「つなぐ」の3大テーマを軸に、お客様の課題解決となるような開発商品の事例などを展示する予定です。ご来場の際には是非弊社ブースにもお立ち寄りください。お待ちしております。



編集後記

この度の記念講演会は日頃お世話になっている各企業の方々だけでなく、新聞等の公募により、大変多くの方にご来場いただきました。老若男女という言葉がピッタリのいろいろな世代の方々も聴講されていましたが、熱心に聴き入る姿が印象に残っております。博士のお話だけでなく、そんな皆様の方からも日々学びは必要なんだと気付かされた時間でもありました。(みっちゃん)

社員プチコラム

石丸 敦(四日市分析センター フィールドGr)

12月で入社1年を迎えることとなり、私もかわせみ通信のコラムを書く機会が回ってきました。カワセミといえば、私がバードウォッチングにはまった初期に必死に探し求めた思い出深い鳥でもあるため、なかなか感慨深いものがあります。本通信タイトル横のカワセミはこちらにお腹のオレンジ色を向けて写っていますが、「カワセミ」という名前は「川にいる背の美しいトリ(川背美)」が由来という説もあるほど、背中も魅力的な鳥と思っています。私の経験では、寒い季節のほうがカワセミを見る機会は増えますので、これからの時期の早朝、川に突き出した枝に注目してみてください。

